

第9期第3回府中市美術館運営協議会報告書

日時 平成29年12月2日(土) 午前10時~12時

場所 府中市美術館

出席者

委員(敬称略・順不同)

薩摩・谷矢・鷲尾・米谷・馬場・吉田・畔上・石田・清水

事務局

藪野館長・須恵副館長・志賀副館長補佐兼学芸係長・尾崎管理係長・武居教育普及担当主査

傍聴者 なし

内容

1 開会

今後の運営協議会の予定の説明

2 会長挨拶

3 館長挨拶

4 議題

(1)平成29年度前期美術館関連事業について事務局より説明

以下、 は各委員の発言、 は事務局

「良い企画展が多い。個人的には浅野竹二が面白かった

「常設展747人は少なすぎるのではないか」

「通常企画展観覧者プラス常設展観覧者で計上しておりますが、この数字は常設展観覧者のみになっております」

「では企画展に来た人は常設展を見たということか」

「はい。開館当初よりこのカウントをしております」

「今年はぱれたん動物園で、一昨年はぱれたんリゾート。去年は異なるが、毎年夏はぱれたんの方が入場者数が増えそうな気がするが」

「ぱれたんの展覧会は、毎回予算をかけて作りこんでおりまして、学芸の負担も大きいところもありますので毎年開催は難しいという実情もございます。また2年に1度という期待感を持ってもらえるのではないかという面もございます。またぱれたんの企画展は対象年齢がやや低めのため、そういったバランスも考えつつ隔年での開催となっております」

「今後の予定、どういった展覧会があるのかを教えて欲しい」

「現在開催中の正宗得三郎展が12月28日までの会期となっております。その後、年が明けて1月13日から2月25日まで「絵画の現在」展を開催いたします。こちらはこれまで公開制作などで府中市美術館と関わった画家もしくは多摩、武蔵野を中心に活動した現代作家の方々の作品を取り上げます。その後は3月10日より春の江戸絵画まつり『リアル最大の奇抜』といたしまして、江戸後期の日本画といいながらも肉薄しているような芸術、リアル感というものを中心に紹介してみたいということで、切り口を変えまして5月6日まで開催いたします」

(2) 20周年を迎える府中市美術館の運営について

「資料について、A4の方はこれまで我々の話したことが話した順にまとめられています。もう一つのA3の資料については、答申の構成案として並べ替えた物です。並び順については後ほど話をしようと思います。まずはA4の方から付け加えるご意見があればどうぞ。また逆にこれは外しては良いのではないかというものがありませんでしたらご意見いただきたいと思います」

「1の有料と無料については答申に入れる必要はないのでは。こういう話があるということを説明しているだけ」

「有料無料というよりも、どういう階層の人たちが入っているのかということの分類になっていたらいいのではないか。有料無料を強調する必要はない」

「これはまとめて一文でどこかに入れればいいでしょう。では2番、作品購入費について」

「このまま載せるわけではないだろうけれど、作品購入費についても市の方に交渉して欲しいとか、そういったことは入れたほうが良いと思う。できれば毎年きちんと予算化して行って欲しい」

「いかがでしょうか、作品購入費について」

「高額な作品を購入する場合、単年度の予算では購入できなくても、複数年度でやりくりするということはできないのか」

「現在の美術館の予算上ではそういった対応はできない状況です」

「予算に縛られず基金を作るべきであるというのはどうか」

「予算あるからと変な作品を買っても仕方がない。必要な時に動かせるお金の方が良い」

「ではここは基金という言葉入れましょう。3番寄贈作品の公表について。府中市美術館では年報を5年ごとに作成していますが。寄贈について早急に知りたいというような声があったかと思いますが、それについてどうしていくか」

「寄贈は毎年あるのか」

「はい、毎年ございます。5年に一度発行の年報の中で書いておりますが、年2回発行している美術館だよりや、常設展における展示という形でもご紹介しております、全く出てないということではありません。ただ、インターネットですとか、そういうところでもよいのではないか、というご意見だと思います」

「寄贈作品は必ず展示するというわけではないのか」

「はい。常設展の展示スペースも限られておりますので、テーマに応じて展示していきたいと思っています」

「何でもかんでも展示するというのは普通ではない。今年度はこういった寄贈がありました、ということインターネット等で発信しているのであれば、あえて答申に載せなくても良いだろう」

「運営についてなので、寄贈についてはインターネットなどで速やかに公表して欲しいというだけ。続いて4番公開制作での作品。これは公開制作で作ったのが必ずしも美術館の作品とはならないということか」

「はい。こちら協議会のなかでご質問いただいた中でのご意見でした」

「よい作品があれば所蔵品になることもあるのか」

「はい、購入予算が確保できればですが」

「答申に載せるほどではないだろう」

「5番について、単独開催でもそうでなくても良い展示会は良い。それよりも府中らしい特色のある展示会を開催して欲しいという意味。新聞社のくだりは答申に載せる必要はないと思う」

「6番も特に載せる必要はない」

「5、7番を中心にまとめればよいのでは」

「7番に質問や付け加えはありますか」

「個人的に言えばケースバイケースで、マスメディアと組んでやるというのは悪くないし、読売がやったから他の新聞社は記事を書かないということでもない。いいものはどこのマスメディアを使おうとしっかりやる。単独開催でいく、ということではなくて柔軟にマスメディアとケースバイケースで、組んだほうがいいのであれば協力してやるのもいいと思う」

「府中市美術館はわりと、単独開催が多いのでは」

「はい。単独開催となりますと、調査、研究も全て館内の学芸で行わなければなりません。調査で伺って、借用で伺って返却で伺う。出張費も伴いながら労力もあるんですが、結局それが美術館の蓄積情報となります。巡回となりますとリストを作る者、借りに行く者、と役割分担できるメリットもありますが、調査研究の蓄積を考えますと単独開催はそういった意味もあります」

「単独開催ばかりしていると負担が大きくて大変なのは」

「単独で開催したほうが美術館の力にはなっていくのだろうが、全部が全部単独というのも随分負担が大きくなってしまう。メディアその他、使えるものは使ってそのあたりのバランスをよくやっていくのがいいところだろう」

「これは、単独開催のときは府中市美術館だけになるのか。例えば近隣の美術館三者合同で開催するというのもあると思う。そうすると勉強する、指導というか学芸員さん達の広がりにもなるし勉強にもなるし。必ずしも新聞社との連携だけでなくそういう連携があってもよいのではないか」

「確かに。そのあたりの文章入れましょうか。共同開催のような可能性」

「特色のある単独開催は力を入れて、且つ他の美術館との連携を持った巡回展もやるとかどうか。新聞社はあえていうとそんな時、美術館の内容には口は出さなくて、むしろ輸送とかバックアップをするのがメイン。だからやはり学芸の事には、この絵はダメだとかそんなことは言わないし、むしろお互い協力する場を作ってあげるとか場所を提供するとか、そういう経費を出すとかというようなものもある」

「次の8番にもご意見ください。原則として美術館ではまだ撮影禁止のところが多いが、最近は携帯電話で簡単に撮影できるので、禁止というわけにもいかない方向もあります。あるいは著作権が切れたのになぜ撮影してはいけないのかといったクレームがあったりもします。やはり原則禁止にした方がよいのか、それともこれからの時代は緩和した方がよいのか、いかがでしょうか。ご意見や印象などお願いいたします」

「最近は、国立美術館でも、これは撮影して良いと決めて許可しているものもある。全て撮影可能というのはきいたことがないが」

「海外では大体撮影可能だった。著作権の問題はないのか」

「著作権の切れているものは撮影しても問題ない」

「古い物は著作権が切れているということなのか」

「日本では50年だが、大体著作権は70年。モナリザは撮影しても著作権上の問題はないが、フラッシュが絵に影響があるなどの理由で制限しているのではないと思う。個人的には、美術館の判断でたまには撮影可能の展覧会があればそれでも良いとは思う。著作権の問題もあるし、絵の保存の観点から作品に良くないから撮影は許可できないというのもありだと思ふ。フレキシブルに対応すれば良いのではないか。いつまでも駄目だと一辺倒にいうのもおかしいような気がする。今後検討して欲しいという形で答申に入れておけば良いのではないか」

「撮影、と一口に言っても作品自体を撮影するのか、その空間を撮影するのかという違いがある。SNS用に展示室を背景にして自分を撮影するというこ

とが考えられるが、「撮影禁止」というのはどこまでを禁止するものと考えているのか」

「その切り分けは難しい問題だと考えております。ポケットから携帯を取り出し何かを撮影するというのが瞬間的な行為です。また、作品を撮影しているのですが、撮影者の前に人がいた場合その人も写り込むこととなります。それはお客様によっては、落ち着いて絵を鑑賞できないということにもつながりかねません。携帯電話等を取り出した時、メールをするのか、電話をするのか、撮影をするのかすぐには判断がつかないため、当館では静かに鑑賞できる環境を守るため、展示場内での使用をお断りさせていただいております」

「ただ、実際に撮影OKしているところもあるので、実際に美術館を研究するなどして、どれが1番良いのか検討してほしいと答申しても良いのではないか」

「私も美術館にいるので分かるが、だんだんと撮影OKの方向に流れていくのではないかという気はしている」

「実際ばれたんのは撮影してよい場所があった」

「ネットで広がるのは悪いことではない。当事者なので是非研究して欲しい」

「つづいて9から11について。20周年について、具体的な案は出ているのか」

「毎回話題にはしておりますが、学芸員も目先の展覧会を開催することで必死になってしまい、具体的なところまではまだ出来ていない状況です。案としては華のあるものと当館らしいもの、2つの企画展をしてはどうかというものがございます。1つはこれまで続けてきた公開制作を集約するようなもの。もうひとつは、10周年で開催したバルビゾン展のような、コレクションをいかしたものです。近世絵画を、ヨーロッパ美術なども吹く根ながら、キーワードとしては動物といった分かりやすいものをテーマとして、老若男女広く集客を図っていきたいと考えております。

「20周年がちょうどオリンピックの年になるので、記念のような展覧会は開催して欲しい。この20周年というのは1年を通して何かするのか、それともある期間だけ20周年記念とするのか」

「前回10周年の時には2つの展覧会を記念展覧会として開催いたしました。20周年でも同様に出来ればと考えております」

「記念展ということで2本くらいが予算も取りやすいのではないか」

「予算規模については今後詰めてまいります」

「11と12について、休館はいつからいつまでですか」

「9月3日から3月15日までを予定しています」

「直すのは天井だけなのか」

「エントランスと、喫茶店までの廊下部分の天井を、現在は吊り天井となっておりますが、こちらをアップ天井にして、大地震時の落下を防ぐものです」

「その他はやらないのか。空調とかトイレの洋式化だとか」

「施設改善の部分は出てくると思います。現在施設運営の洗い出しについて委託をしており、そこで出た改善点について予算化して反映できるよう進めております。また、天井工事に加えて、天井照明の改善工事も行います。現在エントランスの照度が30ルクスから40ルクスと非常に暗い状況ですが、こちらを改修後は最大200ルクスを得られるよう計画しております」

「せっかく半年も休館して工事をするのだから、できる事はなるべくやっておいた方が良くと思う。何かこの美術館の設備面で気になることはありますか」

「エスカレーターの下りがないのは不便だ、どこの美術館でも大体両方付いている」

「エレベーターがあるといっても搬送用のエレベーターで遅い」

「エスカレータの新設が出来るのかは不明ですが、答申には入れておきましょうか。高齢者の方には登り階段よりも下りの方が怖がられるそうですし」

「車椅子ではエレベーターがいいけれど。少人数用のエレベーターを増設するかくだりのエスカレーターを作るか、どちらが安いのか。エレベーターの方が安いように思うが」

「スペースは少なくて済みそうですね」

「そのあたりは、高齢者や障害者にも利用しやすい美術館を目指してもらいたい。どの程度可能かどうかまでは分からないが、答申に入れておきたい」

「資料の学校に関係するところについて話したい。資料の7ページ、不登校者や高齢者といった方々に活力や生きがいを感じてもらえる美術館とあるが、不登校という言葉が学校に関係するのではないかと思う。そういう子どもたちが美術館に行くように考えると、直接呼びかけても難しいところがあるが、フリースクールや高校のサポート校に通っている子どもが多いのでそういう所と連携が取れるのではないだろうか。さらに府中市の小中学校とは連携をとっているが、市内には高校が公立市立合せて6校、大学も農工大や外語大がある。そういった意味での学校との広い連携が出来る美術館を目指すのも良いのではないかと感じている。

それから、25のレンタル自転車について府中市でも導入されたので、美術館もそのスポットに入れてもらえれば利用しやすくなるのではないかと思った」

「3ページのあたりはいかがでしょうか。きらめくイメージについて。これには関心があるのですが」

「私の発言だと思う。来館するたびに、客層が変わってきており、特に親子で見に来ている来館者の態度がここ数年で変わってきていると思う。学校との連携も大事だとは思いますが、これから育っていく小さい子どものいる家庭への呼びかけや、親子で来館した時にこの美術館に来てよかったと思ってもらえるような働きかけが、公園との連続で出来ればよいのではないかと思う。今は美術館が別物という感じがしてしまい、もう少し気軽に入れるようになれば公園に来た人が美術館にも行ってみようという気になるのではないかと感じている。

「せっかく公園のなかにあるので、立地を活かしたい。公園の管理はどこがおこなっているのか」

「東京都です。市内の文化施設8館連絡会議にも参加していただいております。連携を図っております。具体的には、10月に開催される府中市の「市民文化の日」というイベントにご協力いただいたり、当館とも今年度12月16日に夜間開館のようなことを試験的に開催してライトアップイベントを行う予定です。今後も当館と公園とで共催のイベントを開催できればと思っております」

「あとはやはり喫茶店か。もう少し何とかならないのか」

「そこも改修するのか」

「はい。先ほど申しあげました洗い出しの中でポイントが2つあり、1つは流動的な常設展示室の活用として、企画展示室を大きく使っていくための、展示室を1本で繋がるよう牛島記念館まで活用できないかということ。もう一つはトイレとエレベーターです。トイレの洋式化と授乳室の確保、喫茶店のトイレ新設などを要望しております。それによって喫茶店の単独営業が出来るようになり、美術館の開館時間だけに縛られない事業運営が出来るようになることを期待しております。ただこれらは予算請求が通れば、という話になってしまいますが」

「あとは駐車場。車が止められないと帰ってしまう人がいるようだ」

「6ページにもある。これはぜひ答申にいれておきたいことだ」

「13番の最後の受付の話。エスカレーターを上がっていくと、段々受付の人と目線が合うというのはどうかなと思う。別に上に受付がなくてもよいのではないか。下で改札をして2階は自由、2階受付の人はいなくても困らないのではないか。それともう一つは外側にフラッグを掛ける所があるが、ほとんど使われたことがないので寂しい気がする。あと公園の人に向けて看板の設置をもう少しできれば良いと思う。道路の外灯にもフラッグをかけるところがあるが、なかなか美しい状態が保てない。せめてオリンピックの時は綺麗な状態にして欲しい」

「展覧会の担当学芸員が受付をどう配置するか決めておりますが、私が担当する時に注意して言葉にしておりますのは、人が上って来るとき見つめたりし

ないように、ということです。受付の者からすると心配する気持ちから見てしまうのですが、見られた側からすると落ち着かず、高揚感がなくなってしまいます。前回の協議会でのご意見でいただいたお話でしたが、この件はなかなかこちらでは気付かなかった点でしたので、反省すべき点だと思っております。受付に座る者の姿勢、所作、場所について、些細なことでも受ける印象が随分と変わってしまうものなのだと改めて感じております」

「改善の余地はあると思う。机の形を変えるだけでもだいぶ印象が変わる」

「声を掛けてくれる対応は良い。ただ位置が悪いように思うので、もう少し奥の位置だと良い」

「2階に上がっていくと暗い感じがするし、何もなくてすぐ壁になっている」

「あの壁面に作品を展示していたこともございます。予算削減に伴い作品の展示できる場所が減っていったという理由もございます。フラッグや看板の修繕を行いたいのですが、予算がなかなかつかないという現状でございます」

「ほかの美術館だけでなく、遊園地なども研究してみてもどうか。フラッグや看板などは建物に入るまでのワクワク感に繋がる」

「せっかく改修するのであれば柔軟な対応でいって欲しい。4ページのアールブリュットについてはいかがでしょう」

「アールブリュットについても一度説明して欲しい」

「正規美術教育を受けていない方の美術です。前都知事からオリンピックに向け力を入れている事業でもあります。立川市や武蔵野市では市をあげて展覧会を開催したりしておりますが、当館としては特別に力を入れて、というような対応はしておりません。前回の協議会でご意見いただきましたので記載しております」

「パラリンピックと関連するのかもしれない」

「4ページ目の喫茶店や映像について。19番目のお弁当を食べるところがない、というのは、ここの美術館にはないのか」

「喫茶店しかない。館内はスペースがあっても飲食は禁止されている」

「自動販売機もございません。気軽な飲食スペースがないというのは事実です。来館された方がお弁当を持ってきても食べる場所がないという現状ではあります」

「飲食禁止なのは何故なのか」

「暑い時期などは熱中症のおそれもありますので、エントランスでの飲み物は認めておりますが、食べ物についてはお断りをさせていただいております。エントランスに入ってきてお弁当を広げている人が目に入ると、先ほどのお話にありました高揚感と相反してしまうのではないかと思います。ただ食べる

とことがないというお話もありましたので、やはりカフェの充実が必要ではないかと考えております」

「自動販売機はあったほうが良いのではないか」

「最近では自動販売機の外側も綺麗に塗装するタイプのものもあるし、宣伝もかねてするのもよいのではないか」

「屋外の椅子の活用を考えた方がよいと思う。少し歩けば自動販売機はあるので必要ないのではないか」

「夏のことを考えると、自動販売機くらいはあっても良いのではないか。もちろん展示室内には持ち込み不可だが」

「しかしそれではごみが出るのではないか。美術館として綺麗な位置づけをするのに、飲食を可としてしまっただけではごみの問題が出る。見栄え的にどうなのかとは思う」

「そのあたりも含めて検討しましょうというのではどうか」

「他の美術館も研究すると良い。お弁当を食べられるスペースがあるというのはあまり聞いたことがないが、自動販売機は結構置いてあると思う。公園との絡みもあるだろうから、そのあたりも含めて考えるところだろう」

「6ページの周辺案内について、これもいつも出ていることだけれど、やはり京王バスのバス停名称は変更できないのか」

「京王バスに変更を希望しているのか」

「直接伝えてはおりません」

「天神町2丁目に住んでいるからそれ以外はいやだ、という人もいないのではないかと思うが」

「天神町2丁目のバス停名称を府中市美術館前に変更できれば良い」

「20号線に看板があっても良い」

「市にもどんどんアピールしていなくてはいけないのではないか」

「ここは都立の府中の森公園ということで、その中に府中市美術館と府中の森芸術劇場があるが、芸術劇場までは行っても、美術館があることを把握していない人も多いのではないかとおもう。なにか芸術劇場とタイアップしてこちらまで誘導する方法を考えられたら良いとも思う」

「芸術劇場との連携については今後強化してまいりたいと思っております」

「先程も言ったが、先入観を一度持ってしまうと中々払拭できない。個々は芸術劇場と一体化してできると良い。それと絡んで7ページ駐車場。現在は小金井市でもレンタサイクルの場所が幾つかある、借りたところに返さなくてはいらないというものでもない。そういうのがもう少し出来るといい。東府中駅で自転車借りて美術館に乗り捨ててもいいという風な」

「レンタサイクルについてですが、当館主導ではなくて府中市として府中市経済観光課を中心にシェアサイクルを進めようということで、美術館も仲間に入れて頂いております。具体的には、府中の森公園入り口という小金井街道の美術館通りと交差する交差点がございまして。こちらの南東の位置に数台分シェアサイクルスペースを来年度用意することでの話は進んでいます」

「歩いて近いのか」

「当館北側入り口のすぐ近くで、スペースを作る計画が進んでおります」

「その辺りが進むと便利じゃないかと思う。最近たしか奈良でもどこかの駅で自転車を借りて、別の駅で乗り捨ててというものがあつた。公園もあるしその辺りが機能してくるといいと思う。時間もありますし何かどうですか。答申に関しましてはA3の資料がありまして、20周年を迎える府中市美術館ですが、前置きでこれまでの活動をまとめ、そして20周年の機会に何をするかということ。A4プリントは26番、将来の美術館像について、その後の府中市美術館、20周年だけではなくてそれ以降5年10年という方向に進むかという事も多少考えていきたいと思ひます。そのあたり踏まえてご自由に。美術館に期待することありませんか」

「アールブリュット展は美術館がしたほうが良いということで答申に入れるんですか？」

「これは私も答申に入れなきゃならないこととは思わない」

「別に展覧会を考えているとのことなので、他の市がやることをわざわざこの美術館ですることもないだろうし、ここでは他にもやることあるお考えなのだろうから、入れなくてもいいのではないかと思う」

「これを強調する必要ないと私も思う」

「喫茶店の改修は是非してほしい。ここに書いてある意見に上乘せして言うて欲しい」

「スペースを広げるの難しいのか。現在の喫茶店は狭い。ちょっと拡充するにしても、難しいのかなとも思う。もう少し面積があれば良い」

「改修の中でもトイレを外に拡張したいと考えておりますが。トイレは今喫茶店の裏側にテニスコートの方から入るとすぐ右側に今は使われてないスペースがありますが、柱の辺りを取りまして配電盤も移動させて内側からもトイレを作る。その隣に授乳室を作る、あそこを活用したいと思っております。それともう少し外に屋根を作ってもう少し室内感を作っていくたと思っております。厨房が狭いということでメニューが制限されているという事なのでそこがウィークポイントです」

「抜本的に改修した方が良い。世田谷美術館ぐらひのことをしてもよいのではないか」

「レストランにだけ来る人というのも居る」

「小浅間山を潰せばスペース出来るので、1個建物建てるくらいの勢いでやらないとダメなのでは」

「今あるのか知らないが、ランチメニューってのがあれば、1つでいい。多分それを置くだけでも違うと思う」

「別に京王でなくてもいい。街で人気の喫茶店でもいいのではないか」

「上野だとスターバックスがすごく多い。公園の中ってのはロケーションとしてはいいからだろう」

「答申は何でも言えるから、スペースからエレベーターから書きましょう」

「確かにそう。小浅間山があるから向こう側が見えない。あの山を潰してしまえばよいのでは」

「喫茶店に関して、お客様からよくご意見いただくのは大きく2つございまして、まずはセルフではなく席まで持ってきて欲しいということ、もうひとつは美術館らしいレストランであってほしいということです」

「既存のエレベーターの話だが、名物になるくらい遅い。いつも皆で笑ってしまう」

「あのエレベーターは作品輸送のことを考慮し油圧式なので、通常のエレベーターよりもゆっくりと動きます。作品保護のためゆっくり動いていますとどこかに表記しておけばご理解いただけるのではないかと思います」

「いつも団体さんに『動いてるんですか?』と聞かれる」

「20周年の展覧会について、私の意見だが、一つは国重みみたいな純日本的なもの、猛一つは近代的なもの、最先端のもの、それから20周年なので府中に依存したもの。の3つで考えていってほしい」

「話は戻るが建物について、子ども造形室が開かずの間になっている。改修の予定はあるのか」

「改修の予定はございません。しかしデッドスペースになってしまっているのは確かですので、今後の利用を考えてまいります」

「もう少し有効な活用をした方がよい」

「突拍子もない話かもしれないが、美術館だから作品の展示をしているが、作品だけじゃなくて、例えば記念講演会とか、あるいは縁のある方をお招きしてお話して頂くとかそういうのが企画されるといいと思う。例えば開催場所に問題があるなら、府中市の駅前にルシーニュが出来てホールがあるので、ああいう場所とタイアップして一緒にやるとか。勿論作品展示の展覧会が主体ではあるが、そういうものも企画の1つとして考えられるのではないかと。予算の問題や、どういう方が相応しいのか全く分からないので、府中市に縁がある方でそういう話をしてみて、多少ネームバリューのある方のほうが集まりやすいだ

ろうが、導線の問題があれば駅前であれば京王線の府中駅は全列車が停まりま
すしね。そういう発想で始めてみてもいいのかなと思う」

「ありがとうございます。そうですね、20周年ですからね。この20年の
美術館を振り返るみたいな感じでいいでしょうし」

「府中市連携で駅前から直行バスが出来るかもしれない」

「過去に、ベルギー展を開催しました時、府中伊勢丹さんにご協力いただき
てペDESTリアンデッキのショーウィンドウに展示をさせていただきました。
また中央図書館で現代美術をサテライト展示も行いました。20周年につきま
しても、そういった町との連携をしっかりとってまいりたいと思います」

「他に使えるような場所があれば連携していくと幅が広がりますね。それでは
議題の3、その他何かございますか。文章にまとめなければならぬので、小
委員会を設け、4人ぐらいで草案を作りたいと思います。あと2人ほどご協力
いただきたいのですが」

「どのくらいのタイミングか」

「事務局が今回のご意見をいただきまして答申案の素案を作成いたします。そ
れをもとに6月の小委員会でまとめていただきたく存じます」

「小委員会で意見を出しあい、その後メールなどでやりとりをして文章をま
とめ、4回目の協議会では事実上答申を完成させるというかたちでいきたいと
思います。ではあとお二人は石田委員と鷲尾委員でお願いいたします。それで
はこれにて今回の協議会は終了いたします、ありがとうございました」